2012年(平成24年)12月14日(金曜日)　読売新聞

山中教授の器具 展示へ

ノーベル博物館に3点寄贈

歴代受賞者のコーナーに飾られる予定の山中伸弥さんのマイクロピペット(12日、ストックホルムのノーベル博物館で)＝川崎公太撮影

【ストックホルム＝今津博文】ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥・京都大学教授が、受賞を記念して当地のノーベル博物館に寄贈した実験器具「マイクロピペット」3点が、来年2月上旬から同館で一般公開されることが決まった。

マイクロピペットは遺伝子実験などで、ごく微量の液体を量るために使う器具。山中さんが奈良先端科学技術大学院大学の助教授となり、iPS細胞(人工多能性幹細胞)を作る研究を始めた2000年当時に購入し、使い続けていたもの。柄の付け根部分に貼った緑色のビニールテープに「山中」と名前が書かれている。

同館では、1901年に第1回物理学賞を受賞したレントゲン博士が開発したX線発生装置や、湯川秀樹博士(1949年、物理学賞)が揮毫(きごう)した色紙の複製、小柴昌俊博士(86)(2002年、同)がニュートリノ観測のためにメーカーに特注で作らせた光電子増倍管など、歴代受賞者にゆかりの品々を保管し、一部を展示。来年2月に展示スペースの拡張工事が終わり次第、山中さんのマイクロピペットを展示する計画だ。

同館のオロフ・ソンメル教育担当オフィサー(33)は「まだまだ十分、実験に使える大切なものだ。ぜひ実物を見て、研究に取り組む彼の息づかいを多くの人に感じてほしい」と話している。